

Cu Series

GIYA Cuシリーズ誕生

VIVID Audio (ビビッド・オーディオ) のチーフエンジニア、ローレンス・ディッキーは、共鳴や共振を徹底して排除する数々の技術の結晶としてGIYAシリーズを完成させました。初代GIYA G1の誕生から17年、いまなお他の追随を許さぬ最先端スピーカーとして、その地位を確立しています。その後、フラグシップモデル「GIYA G1 SPIRIT」で培われた新技術は第2世代“GIYA S2シリーズ”に継承され、シリーズ全体の進化を実現しました。

さらに2024年には、ローレンス・ディッキーの理想をすべて具現化した究極のスピーカー「MOYA M1」が完成。その開発で採用された銅キャップは、後のシリーズにとって大きな意味を持つ成果となりました。

そして、S2シリーズの技術を基盤に、低中域にMOYA M1で開発された銅キャップを新たに導入することで誕生したのが、新世代“GIYA Cuシリーズ”です。内部剛性を高める複合材の再設計、金属パーツの導入による制振性能の向上、専用チューニングを施したドライバーやネットワークといった進化を加え、測定性能と音楽表現力を高次元で両立。背景の静けさ、音場の透明感、低域の精密な再現力をさらに磨き上げています。VIVID Audioの到達点をさらに高みへと昇華させたGIYA Cuシリーズのサウンドを、ぜひお楽しみください。

GIYA Cuシリーズの技術的進化

■ エンクロージャー素材・構造

内部剛性を高めるため、複合材の配合をCuシリーズ専用に再設計

要所に銅を含む金属パーツを導入し、共振を徹底的に抑制

背景の静寂性や低域の精密な再現力を向上

■ ドライバー技術

S2で採用されたドライバー設計を継承しつつ、Cu専用にチューニング

低中域にMOYA M1で開発された銅キャップを採用

拡散性を最適化し、音場の広がりと明瞭度を向上

中低域のレスポンスと制動力を強化し、楽器や声のニュアンスを忠実に再現

■ クロスオーバー・ネットワーク

配線や部品選定を見直し、タイムアライメントと位相特性を最適化

微小信号の透明度を向上させ、音像の定位や空間の一体感を強化

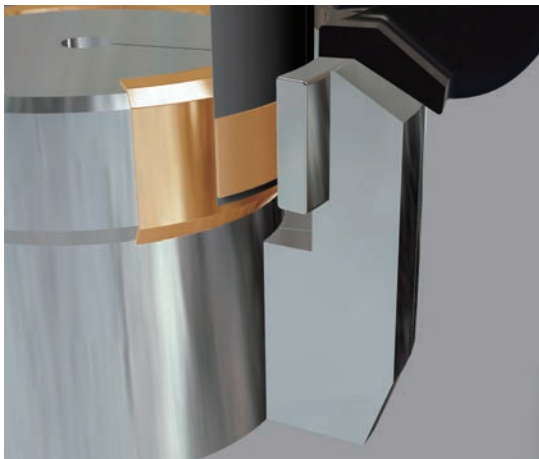
従来モデルを超える解像度と立体感を実現

■ 測定性能

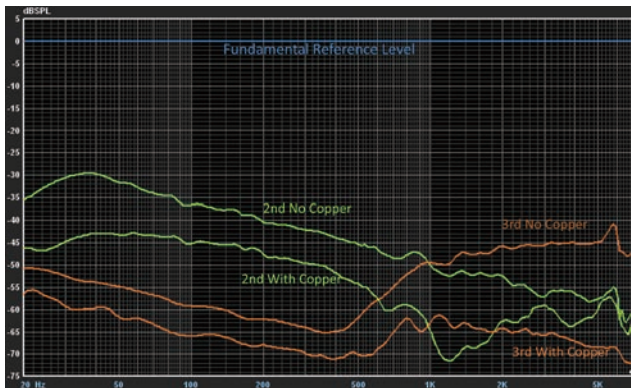
S2世代比で歪率の低減、S/N比の向上、周波数特性の平滑化を達成

学的測定と聴感上の表現力を両立

音楽の微細なニュアンスやホールの空気感まで忠実に再現



銅キャップ GIYAシリーズすべての製品の中低域に採用



C125SE VS Cu ディストーション



GIYA G1S Cu
4 Way 5 Drivers
(G1 Spirit)

GIYA G2 Cu
4 Way 5 Drivers

GIYA G3 Cu
4 Way 5 Drivers

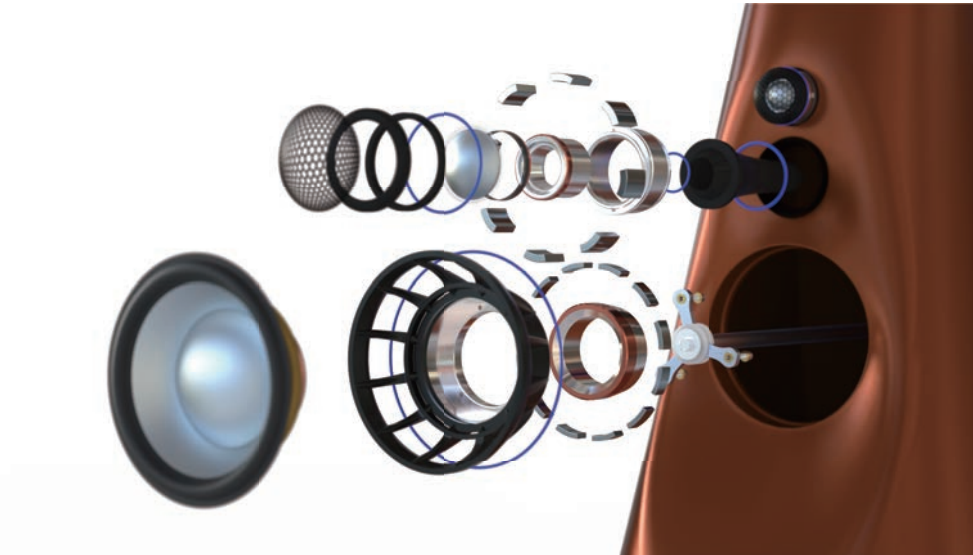
GIYA G4 Cu
4 Way 5 Drivers

GIYA Cu Series Lineup

新世代 GIYA Cu シリーズ

GIYA Cuシリーズは、VIVID Audioの革新的な設計思想を受け継ぎながら、新たな技術と素材を組み合わせで誕生した、次世代のリファレンススピーカーです。S2シリーズで確立されたキャビネット構造、ドライバー設計、ネットワークチューニングの完成度を礎に、Cuシリーズではさらに内部剛性の向上、共振の抑制、制振性能の最適化を追求。Moya M1で開発した銅キャップをすべてのGIYAシリーズの中低域に採用しました。加えて、ドライバーやクロスオーバーネットワークもCu専用に設計・チューニングされており、微細な音楽表現からダイナミックなスケール感まで、幅広く忠実に再現することが可能になっています。

Cuシリーズの各モデルは、設置環境やリスニングスタイルに応じて選択できる4種類で構成されています。高い解像度と豊かなスケール感を両立させ、音楽の細部に宿るニュアンスや空間の奥行き、ホールの空気感までを自然に描き出します。リスナーはどのモデルでも、VIVID Audioが目指す究極の音楽体験を存分に享受することができます。



GIYA G1S - Cu (GI SPIRIT) / G1S-CuEX

新世代 GIYA Cu シリーズのフラグシップモデル

G1 SPIRIT の登場は、G2 の開発で得られた経験と知見をオリジナル G1 に反映させたものでした。その結果、低域再生において多くの設計者が「十分すぎる」と評するほど強力な磁気回路を採用し、音質面で一段と磨きをかけています。そして今、新たな G1 SPIRIT Cu では、フラッグシップモデル MOYA M1 で採用された 銅キャップ付き磁気回路 の設計を GIYA シリーズへと展開しています。

G1 SPIRIT Cu では、放射状磁化方式を採用した 75mm ボイスコイル搭載の C125-75Cu と、集中磁束型の 50mm 放射状磁気回路を備えた D50Cu の双方に銅キャップを追加。これによりインダクタンスを低減し、高域特性を拡張。さらに歪みを大幅に抑制し、その低減幅は状況によっては最大 20dB に達します。



■スペック

ドライバーユニット	D26 S Tweeter D50 Cu Mid-Range C125 - 75SCu Mid-Bass C225 - 100 Woofer x 2
能率	92dB @ 2.83V rms / 1m
インピーダンス	6Ω nominal / 3Ω minimum
周波数帯域	25 - 36,000 Hz @ -6dB
ツイーターブレイクアップ周波数	44,000 Hz
周波数特性	29Hz～33kHz (基準値±2dB)
全高調波歪率 (2次・3次)	<0.3% below 220Hz, <0.1% between 220Hz and 3.5kHz, <0.3% above 3.5kHz
クロスオーバー周波数	220 / 880 / 3,500 Hz
最大許容入力	1,600 W
製品寸法・重量	1,600(H) x 440(W) x 820(D)mm, 67.4kg / 62kg(EXモデル)

GIYA G2 - Cu/ G2-CuEX

新時代 GIYA Cu シリーズの中核をなすモデル

オリジナル G1、および G1 SPIRIT Cu の進化形として誕生した GIYA G2 Cu は、卓越したテクノロジーと比類のない音質を受け継いでいます。G2 Cu は、上位機種 G1 SPIRIT Cu と共通の設計思想に基づくキャビネットを採用。その独創的な形状は、共振や内部反射を徹底的に抑制し、音楽信号の純度を高めるために最適化されています。ドライバー構成も同様に、すべてのユニットが独立した指数型チューブにより最適な負荷を受けています。



高域は合金／カーボン製ドームを採用した D26 ツイーターが担当し、低域は C175 が受け持ちます。中域には、銅キャップ付き磁気回路を備えた D50Cu (アッパーマイッド) および C125SCu (ローマイッド) を採用。これにより、中域再生において極めて高い純度と低歪を実現しています。その結果、得られるサウンドは極めて自然で透明感に富み、音楽の細部までも忠実に描写。高い解像度と豊かな音楽性を両立した再生を可能にします。

■スペック

ドライバーユニット	D26 Tweeter D50 Cu Mid-Range C125 SCu Mid-Bass C175 Woofer x 2
能率	89dB @ 2.83V rms / 1m
インピーダンス	6Ω nominal / 4Ω minimum
周波数帯域	29 - 36,000 Hz @ -6dB
ツイーターブレイクアップ周波数	44,000 Hz
周波数特性	33Hz～33kHz (基準値±2dB)
全高調波歪率 (2次・3次)	<0.5% below 220Hz, <0.1% between 220Hz and 3.5kHz, <0.3% above 3.5kHz
クロスオーバー周波数	220 / 880 / 3,500 Hz
最大許容入力	800 W
製品寸法・重量	1,383(H) x 360(W) x 638(D)mm, 55kg/43kg(EXモデル)

GIYA G3 - Cu/ G3-CuEX

最高パフォーマンスのベストセラーモデル

上位モデルで培われたモーター構造とサスペンション設計を継承し、コンパクトなキャビネットながらも力強い低域エネルギーを実現するのが GIYA G3 Cu です。バスエンクロージャー上部には、Vivid Audio 独自のテーパード・チューブ・アブソーバーに由来する特徴的なカール形状を採用し、縦方向の共振を徹底的に排除。明確で俊敏な低域再生を実現します。高域および中域には上位モデルと同一の D26、D50Cu、C125SCu ドライバーを搭載。低域には 2 基の C135 ユニットの採用し、リアクションキャンセル構造によってエンクロージャーの振動を相殺しています。これにより、不要な揺れや濁りのない、立体的で明瞭な音像を再現します。



■スペック

ドライバーユニット	D26 Tweeter D50 Cu Mid-Range C125 SCu Mid-Bass C135 Woofer x 2
能率	87dB @ 2.83V rms / 1m
インピーダンス	6Ω nominal / 4Ω minimum
周波数帯域	33 - 36,000 Hz @ -6dB
ツイーターブレイクアップ周波数	44,000 Hz
周波数特性	36Hz～33kHz (基準値±2dB)
全高調波歪率 (2次・3次)	<0.5% below 220Hz, <0.1% between 220Hz and 3.5kHz, <0.3% above 3.5kHz
クロスオーバー周波数	220 / 880 / 3,500 Hz
最大許容入力	800 W
製品寸法・重量	1,161(H) x 341(W) x 578(D)mm, 42kg/ 37kg(EXモデル)

GIYA G4 - Cu/ G4-CuEX

小さなスペースでも本物のGIYAサウンド

コンパクトなサイズながら、GIYA G4 Cu は真の 4 ウェイ構成を備えています。5 基のドライバーはいずれも自社開発・製造によるもので、それぞれ独立したテーパード・チューブ・アブソーバーによって最適にロードされています。高域には上位モデルと同一の D26 ツイーターを搭載し、滑らかで伸びやかな高域再生を実現。低域には大振幅に対応するよう特別設計された C125L バスドライバーを 2 基採用し、キャビネット容量を超える豊かな低域表現を可能にしています。中域には D50Cu を、ローマイッドにはより小型の C100SCu を搭載。いずれも銅キャップ付き磁気回路を採用し、高域特性の拡張と歪みの低減を実現しています。

G4 Cu は上位 GIYA モデルと同様、極めて制動の効いた明瞭な低域を再生。不要な共振や濁りを徹底して排除し、自然で疲労感のないリスニング体験を提供します。



■スペック

ドライバーユニット	D26 Tweeter D50 Cu Mid-Range C100 SCu Mid-Bass C125L Woofer x 2
能率	86dB @ 2.83V rms / 1m
インピーダンス	6Ω nominal / 4Ω minimum
周波数帯域	36 - 36,000 Hz @ -6dB
ツイーターブレイクアップ周波数	44,000 Hz
周波数特性	39Hz～33kHz (基準値±2dB)
全高調波歪率 (2次・3次)	<0.5% below 220Hz, <0.1% between 220Hz and 3.5kHz, <0.3% above 3.5kHz
クロスオーバー周波数	250 / 1,000 / 3,500 Hz
最大許容入力	400 W
製品寸法・重量	1,011(H) x 300(W) x 460(D)mm, 24.5kg / 21kg(EXモデル)

カラーバリエーション

すべての **GIYA** シリーズの仕上げは、自動車と同じ塗装工程により外観仕上げを行います。各モデルにはスタンダードカラーが設定されていますが、オプションでアップグレードカラーを選択いただくことも可能です。また、特別色をオーダーも可能です。販売店にご相談ください。）

【スタンドカラー】

オイスターマットグレー/ パールホワイト/ ピアノブラック

【アップグレードカラー】

フェラーリエロー/ ボローロレッド/ ライクスムゼウムブルー/
モナークパープル/ シリオブルー

※標準は光沢仕上げですが、全てのカラーでマット（ツヤ消し）仕上げも選択できます。



オイスターマットグレー
スタンダードカラー



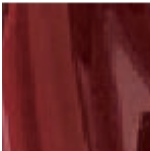
パールホワイト
スタンダードカラー



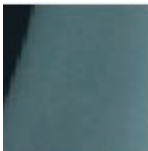
ピアノブラック
スタンダードカラー



フェラーリエロー
アップグレードカラー



ボローロレッド
アップグレードカラー



ライクスムゼウムブルー
アップグレードカラー



モナークパープル
アップグレードカラー



シリオブルー
アップグレードカラー